

## 新生児・乳児の退院後の在宅ケアシステム に関する研究：外科疾患

( 分担研究：新生児・乳児の退院後の在宅  
ケアシステムに関する研究 )

研究協力者 佐伯 守洋  
共同研究者 中野美和子、土田 嘉昭

**目的：**新生児・乳児の外科的疾患のなかには、その性質上、長期にわたる医学的管理を要するものがある。それらのうち、比較的病状が安定するものでは、適切な管理により家庭でのケアが十分可能であり、これによる入院期間の短縮は、患者の発育、母子関係、家庭関係の上で望ましく、医療機関にとっても効率的な運営をもたらす。本研究では、このような患児における自宅での管理の問題点を検討し、家族が安全、適切にケアできるような指導要綱を作成するとともに、在宅ケアをサポートする体制の確立を図るものである。

**方法：**本年度、在宅ケアを要する疾患の実態を把握するため、過去3年間(1987年～1989年)の当院外科外来通院患者について、いくつかの疾患群を想定し、その実数、原疾患、ケアの状況について調査した。対象としたのは、生後12カ月以内の乳児である。

**結果：**(別表参照)

### 1. stoma をもっているもの

入院中よりstoma therapistの指導を受けている人工肛門では、スムーズに在宅ケアに移

行している。胃瘻のほうが、周囲のびらん、カテーテル自然抜去等で、トラブルが多い。この他に尿路系のstomaでもカテーテル交換、尿路感染でトラブルをおこしている。

### 2. 外科的消化吸収障害

特殊ミルクの選択、脱水等、指導を要した。在宅輸液管理も考慮する必要あり。

### 3. 排便管理を要するもの

肛門ブジー、浣腸・緩下剤の投与等を長期にわたって要する。

### 4. 嘔吐性疾患

哺乳法・体位の指導を要し、重症のものは嚥下性肺炎をきたすので、管理困難例もあり。

### 5. 胆道閉鎖症術後：

経過良好例でも、胆管炎・胆汁流出状況等につき綿密な指導を要した。

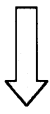
### 6. 固型悪性腫瘍：

化学療法中の種々な指導を要した。

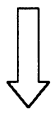
いくつかの疾患群で調査したが、いくつかの病態が重なっているため、個々の疾患で指導したほうが良いかもしれない(食道閉鎖等)。家族の理解を得るための病態の説明と注意点、対応法の指導手引書は有用であろう。日誌形式

のものも良いであろう。遠隔地の患者には、自宅近くでも対応がある程度できるようなシステムを作ること必要であろう。

次は家族より実情を聴取して、問題点を明らかにする予定である。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的:新生児・乳児の外科的疾患のなかには、その性質上、長期にわたる医学的管理を要するものがある。それらのうち、比較的病状が安定するものでは、適切な管理により家庭でのケアが十分可能であり、これによる入院期間の短縮は、患者の発育、母子関係、家庭関係の上で望ましく、医療機関にとっても効率的な運営をもたらす。本研究では、このような患児における自宅での管理の問題点を検討し、家族が安全、適切にケアできるような指導要綱を作成するとともに、在宅ケアをサポートする体制の確立を図るものである。